

事業実施報告書

法人名	NPO法人子ども地域ネットワーク所沢
活動名	学生活動支援
助成事業の種類	SDGs推進活動助成 人間分野
事業の目的	
不登校とひきこもりの人数が増加している中、人との繋がる機会をつくることで、少しでも支援の輪を広げていく。	
また、繋がりができる事で、相談できる機会やロールモデルができ、一人で抱えないで済む地域社会を提供していく。	
活動を支えていく中で学生の居場所を確保し、イベントの機会だけでなく日常的に集まってコミュニティを構築できる機会を与えていく。	
社会経験ができる場が地域になく、学生と社会の繋がりが非常に少ないため、地域の住民や企業、市役所の人と関わる機会をつくっていく。	
以上の取組を通して、生きていく力をつけていき、自殺・不登校・ひきこもりの数を減らし、学生と社会の隔たりを少しでもなくしていく。	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
所沢市では1,400名を超える子どもが学校へ行く事に不安を抱えています。また、社会人が学生の姿を見る機会や関わる機会がありません。	
お互いの社会を知ることや触れたりする機会がないことで、関心を持つことがありません。学生が何を考えて何に悩んでいるのかを知る機会がありません。	
そして、地域では子どもが新たなマーケットとして取り上げられるようになり、勉強や習い事、活動することにおいてすべて企業が入ってきて儲けようとしています。	
販促のターゲットとして子どもは巻き込まれています。子どもがお金をかけずに自由に遊んだり楽しんだり学ぶことを、自分の石で選べる	
環境が地域には存在しません。そのような学生の課題を少しでも大人が気かけられるような機会もつくっていく必要があります。	
今年度は自殺未遂をした18歳の学生と関わる事が出来るように繋がりを大事にしています。また、家庭内でのDVにより家に帰ることが困難になり	
精神不安を抱えながら過ごす高校生とやり取りをし、シェルターの必要性も高まっています。	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
①高校生が中学生向けに進路のことや宿題について一緒に見て、考える企画を考えました。当法人は企画を支援するために学生のフォローと市役所の繋がりを作りました。	
②メイクの仕方・広島原爆のお話・犬の保護活動・手品・イラストの作り方など、沢山の企業団体・個人の方にご協力を頂き、一緒に企画を考えたり学ぶ機会をつくりました。	
延べで小学生が52名・中学生5名・高校生27名・大学生7名が受講・体験しその中で関係性がうまれる瞬間もありました。	
③イタリアのDeledda高校と交流を行い、所沢市の地域や文化の交流を行い、ホームステイも行うことが出来、普段関わる事が出来ない国の学生と貴重な機会を提供。	
④あかねの風保育園の夏祭り和新所沢フェスティバルに招待頂き、小中高大学生が出張でお店を開きました。新たな出会いの場や活動を知っていただく機会となりました。	
⑤夏休みの勉強会を3日間開くことが出来、小中学生との交流や、高校生の受験勉強対策など行い、無事に大学を合格した学生もいました。また、勉強会をきっかけに	
無料塾を高校生が始める事になりました。また、次の企画を行っていききたいなど、前向きな意見と行動が増えてきています。	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
①進路について、フリースクールへ通う選択を得る世帯が2世帯。受験対策で大学進学決まった学生が1月時点で2名。	
②イベントは13の大きなイベントを学生が行うのを支援していききました。延べ、874名の学生と地域の方々が関わる事が出来ました。その中で、	
地域のイベントや学生とのコラボ企画なども増えて、多くの出会いと経験を得ることが出来ました。	
③活動支援を行っている中で、関わっている学生の悩みを聞く機会が数回ありました。その中で、学校へ行けているが生きづらさを感じている学生がいる事が	
多くいる事がわかりました。LINEで繋がる中で、連絡をしてくれたり、電話で助けを求める事もありました。そのような学生の受け入れを行うこともしました。	
④保護者も悩みを抱え得ている世帯が多く、家庭の不安やストレスを相談できる機関やサービスはなく、どこに行けばその世帯に会うサービスを受ける事が出来るのか。	
知ることすらも難しいため、親子で話を聞き具体的な支援繋げていくために行政機関や民間と繋ぐことをおこなってきました。	

費用面での工夫
今期もイベントが多くあったため、景品や工作キッドなどはなるべく寄付や自分たちで作るなどをして活動の幅を広げられるようにしました。
また、学生の交通費は学校の活動費として支給される子もいたため、精査して、その交通費分を活動費に使う事ができました。
結果、新たな地域からのイベントのお誘いにお応えする事ができるようになりました。
地域社会への還元
引きこもりや不登校、自殺に繋がらないようにするための、福祉的支援を行っている行政サービスや民間事業がありません。私たちは入っていきにくい個人の事情や家庭の事情を聞き取りながら、必要な支援を考えた結果、地域でのイベントや居場所を行う事となりました。行政と繋がりを持ち、支援としては必要だが、予算がなかったり事業目的と変わってしまう事で手を差し伸べられないところに丁寧に関わってきました。
弊社の活動の成果を広めていくために、今年度は市内の4つの団体に講師として市内の現状を伝えてきました。学生や家庭の状況について話をすると、驚きのコメントや考えたこともなかったの、知ることが出来て関心をもてるようになったなどの感想を頂きました。また、お世話になっている企業団体へ活動報告を行う事で、書面でも今の学生の状況について伝えてきました。そこから支援の輪を広げていくことができ、学生が複数の居場所や活動などを選択できるようになっています。私たちが企業団体同士や学生とのマッチングを行っていく中で、繋がり連鎖ができてきています。
今後どのように事業を継続し発展させるか
学生が安心して通える環境を維持していき、利用者や活動する学生が増えていく事で、学生の状況を知っていただく機会になればと考えています。
そのために、学生との関係性を丁寧に築いていき、高校生が大学に進学した後に支える側になってくれる学生が増える事で、地域で支えていく連鎖の流れが絶えることなく続いていけるようにしていきます。社会人になっても帰って来れる場所になりつつあるため、自分たち(自分)の居場所として継続していく事に意味があると考えています。
また、学生の支援を行っていく中で、家庭支援が必要な世帯がほとんどでした。家庭の支援を行政と共にどのようにできるのかを模索しながら連携を計っていき、事業として行っていけるのか検討していきたいと考えています。

事業収支計算書

法人名 NPO法人子ども地域ネットワーク所沢

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	72,100	21,557	△ 50,543	
活動実施による収入等	30,000	43,000	13,000	
その他	15,000	0	△ 15,000	
収入の部 合計	617,100	564,557	△ 52,543	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	30,000	23,120	△ 6,880	
通信運搬費	2,000	0	△ 2,000	
旅費交通費	80,000	18,220	△ 61,780	
消耗品費	270,000	361,777	91,777	
備品費	0	0	0	
委託費	40,100	36,440	△ 3,660	
謝金	90,000	50,000	△ 40,000	
人件費	105,000	75,000	△ 30,000	
その他	0	0	0	
支出の部 合計	617,100	564,557	△ 52,543	